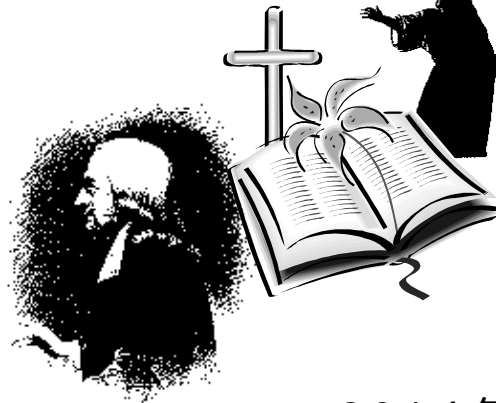


2011.10.23 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2011年

岩上敬人著「パウロの生涯と聖化の神学」

<ローマ書における聖化の教え(4)>  
「『信仰の従順』とは？」

テキスト：

「このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。」(ローマ1：5)

## A. ローマ書における「従順」

1. 「信仰の従順」はローマ書執筆の目的

パウロの目的は、キリストによって啓示された福音の全体像を示すこと、そして、その結果、(主として異邦人から成る)ローマ教会信徒から「信仰の従順」を獲得することであった(15：18)。

2. 信仰の従順とは何か？

それは、「信仰に続く従順、或いは、信仰から生み出される従順」のことである。信仰は従順から生まれ、信仰は従順を生み出す。

3. 従順と不従順の対比(5：19)

- ・アダムの不従順により罪が全人類に広がったが、
- ・キリストの従順により全人類は義とされ、罪とその力から解放された。

4. 罪の奴隷と従順の奴隷(6：15 - 23)

- ・私たちは、罪という主人の奴隷として罪に従って生きていたが、

- ・今や、義の奴隷、神の奴隷として、罪の力から解放され、神の力とその支配のもとに生きるようになった。

### B. ローマ書の文脈における「信仰の従順」

1. 聖潔：それは、「信仰によって義と認められ、罪赦された信仰者が、再び道徳的腐敗に陥ることなく、聖潔に進むこと」
2. 贖い：「イエスの従順によって、アダムの不従順とその結果（罪と死）を無効にして贖いの恵に生きること」である。
3. 一致：さらに、異邦人にとって、彼らが福音を正しく理解して教会の一致を保つことである。特に律法を重んじて生きているユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンが互いを裁くことなく、互いを受け入れ、愛し合うことが「信仰の従順」である。

### ローマ書の聖化のまとめ

異邦人中心でありつつも、ユダヤ人が加わりつつあったローマ教会において、「互いを軽蔑し合わないこと」が大きなテーマであった。聖い生活とは、互いに愛し合い、受け入れあうこととパウロは強調する。「パウロの聖化のメッセージは、異邦人に対する信仰の従順のメッセージでもある。信仰の従順によってローマ教会は一つになり、異邦人もユダヤ人も、声を一つにして神をほめたたえ、礼拝を捧げるものとなるのである。」